

令和7年度 第1回牧区地域協議会

日時：令和7年4月15日（火）

午後7時00分～

会場：牧区総合事務所301会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

- (1) 令和7年度牧区の主な事業について・・・・・・・・・・資料No. 1

4 自主的審議事項

- (1) あらゆる人が安全・安心に住みたい「牧づくり」について・・・・資料No. 2

5 その他（連絡事項）

- ・令和7年度牧区総合事務所職員体制について
- ・次回の開催日（ 月 日）

6 閉 会

牧区における令和7年度の主な事業について

（上越市第7次総合計画基本目標による分野別）

支え合い、生き生きと暮らせるまち　～健康・医療・介護・福祉～	
新規	【地域独自】高齢者の生活支援事業（420千円） 自ら通院や買い物等の外出が困難な高齢者等が安心して暮らしていけるよう支援するため、地域の人が支え合う仕組みにより見守りや外出支援事業を実施します。（実施主体：特定非営利活動法人　牧振興会）
継続	牧診療所の運営（89,502千円） 国保診療所を開設することにより、中山間地域やへき地における地域医療を確保し、地域住民の健康保持・増進及び医療不安の軽減を図るとともに、市内の病院と連携し、市民生活の安全・安心を確保します。
安全安心、快適で開かれたまち　～防災・交通・都市整備・環境～	
継続	道路除雪（204,552千円） 冬期間における市道の円滑な交通を確保するため、適切な除排雪作業を行うとともに、路面凍結防止対策を実施します。
継続	地すべり巡視業務（1,306千円） 新潟県地すべり巡視業務委託要領に基づき、地すべり発生の危険性が高い区域において、地すべり巡視員による巡視活動を行い、地すべりの兆候や土砂の崩落を早期に発見し、土砂災害を未然に防止します。
継続	路線バス宮口線のバス運行対策支援（23,115千円） 児童・生徒の通学や高齢者の通院など、市民の日常生活を支える重要な交通手段である路線バスを運行する事業者に対し補助を行い、生活交通を維持・確保します。

誰もが活躍できるまち　～市民活動・若者活躍・コミュニティ～	
継続	地域おこし協力隊の新規募集・活動による地域支援（10,799千円） 地域とともに活動する「地域おこし協力隊」を新たに棚広集落及び白峰地区で各1名募集するとともに、その活動を通じて、地域のさまざまな取組を支援するほか、元隊員が取り組む起業等を支援します。
継続	【地域独自】「牧っていいね」を広げる情報発信事業（342千円） 牧区を広く知ってもらうとともに、牧区の若い世代が地域づくりに関わるきっかけをつくるため、ホームページやSNS等を活用し、イベントや日常の暮らし、住民の様子などを発信します。（実施主体：特定非営利活動法人　牧振興会）
継続	牧まつり補助金（1,472千円） 地域振興に資する事業の実施を通じ、個性をいかした地域の活性化を図ります。（実施主体：特定非営利活動法人　牧振興会）

- ・ 牧区での主な事業を抜き出したもので、全ての事業を表したものではありません。
- ・ 【地域独自】とあるのは、地域独自の予算事業を表します。裏面に全事業を記載しています。

魅力と活力があふれるまち　～農林水産業・観光・商工業～	
継続	日本型直接支払交付金（119,539千円） 農業の有する多面的機能の発揮・増進を図るため、地域ぐるみで実施する農業用施設等の維持・管理作業や、急傾斜地等の農業生産条件不利地で行う農業生産活動等、環境負荷の少ない農業生産活動に取り組む農業者等を支援します。 ・ 多面的機能支払交付金（16,750千円） うち冬季湛水（1,928千円） 環境保全型農業直接支払交付金からの移行 ・ 中山間地域等直接支払交付金（102,789千円）
継続	【地域独自】牧区棚広産雪下キャベツ「深山姫」収穫体験事業（128千円） 地域資源である「雪」を生かした特産品として、雪下キャベツ「深山姫」を広くPRし、販路拡大につなげるため、収穫体験等を通じて、付加価値のある特産物であることを知ってもらい、交流人口の拡大を図ります。（実施主体：農事組合法人　棚広生産組合）
継続	農地・農業用施設災害復旧及び土地改良事業（36,400千円） 被災した農地・農業用施設の復旧工事を行うほか、県が事業主体となって実施するため池等整備事業や中山間地域農業農村総合整備事業に対して、市が事業費の一部を負担します。 災害復旧： 棚広用水取水口復旧工事（5,532千円） ため池：2地区 用水路改修：6箇所 暗渠排水整備：7.0ha
継続	【地域独自】地域活性化促進事業（まき深山のともしび）（831千円） 冬の一大イベントである「灯の回廊　まき深山のともしび」を牧区全体で取り組み、にぎわいを創出するとともに、地域の魅力を発信し区内外に交流の輪を広げる。（実施主体：牧地区協議会連絡会議）

次代を担うひとを育むまち　～子育て・教育・スポーツ・文化振興～	
新規	牧中学校特別教室エアコン設置（25,859千円） 学校教育の円滑な実施を期するため、経年劣化した施設及び設備の大規模改修を行い、耐久性及び機能性の向上を図ります。
新規	牧体育館大規模改修工事設計業務委託（7,436千円） 市民の健康増進やスポーツ活動の普及促進及び競技力の向上を図るため、安全かつ快適なスポーツ環境を整備するものとして、牧体育館の長寿命化に向けた大規模改修工事を実施するための設計を行います。
継続	スクールバス等運行事業（23,734千円） 公共交通の利用が困難な遠距離を通学する児童・生徒の通学手段及び安全を確保するため、スクールバスを運行します。
継続	【地域独自】青少年健全育成体験事業（405千円） 子どもたちに、普段できない体験活動を通じた学びの場を提供するため、体験型イベント「わんぱく村」を開催します。（実施主体：特定非営利活動法人　牧振興会）

牧区における令和7年度地域独自の予算事業

※()内の金額は予算額(補助金額または委託料)

社会福祉分野

新規

高齢者の生活支援事業(420千円)

自ら通院や買い物等の外出が困難な高齢者等が安心して暮らしていけるよう支援するため、地域の人が支え合う仕組みにより見守りや外出支援事業を実施します。

実施主体:特定非営利活動法人 牧振興会

地域振興分野

継続

「牧っていいね」を広げる情報発信事業(342千円)

牧区を広く知ってもらうとともに、牧区の若い世代が地域づくりに関わるきっかけをつくるため、ホームページやSNS等を活用し、イベントや日常の暮らし、住民の様子などを発信します。

実施主体:特定非営利活動法人 牧振興会

農林水産業・観光振興分野

継続

牧区棚広産雪下キャベツ「深山姫」収穫体験事業(128千円)

地域資源である「雪」を生かした特産品として、雪下キャベツ「深山姫」を広くPRし、販路拡大につなげるため、収穫体験等を通じて、付加価値のある特産物であることを知ってもらい、交流人口の拡大を図ります。

実施主体:農事組合法人 棚広生産組合

継続

沖見地区観光拠点づくり事業(200千円)

沖見地区の玄関口にふさわしい景観づくりとともに牧区の観光拠点とするため、「牧ふるさと村自然と憩の森」周辺の荒廃地に花の植栽や遊歩道の整備等を行います。

実施主体:沖見地区協議会

継続

地域活性化促進事業(まき深山のとしび)(831千円)

冬の一大イベントである「灯の回廊 まき深山のとしび」を牧区全体で取り組み、にぎわいを創出するとともに、地域の魅力を発信し区内外に交流の輪を広げます。

実施主体:牧地区協議会連絡会議

文化振興・教育分野

継続

川上山里の風コンサート事業(850千円)

地域の活力維持と郷土愛を育むため、地域の宝物として維持管理している「川上会館」(旧川上小学校木造体育館、国登録有形文化財)を活用し、「川上山里の風コンサート」を開催します。

実施主体:川上地区協議会

継続

青少年健全育成体験事業(405千円)

子どもたちに、普段できない体験活動を通じた学びの場を提供するため、体験型イベント「わんぱく村」を開催します。

実施主体:特定非営利活動法人牧振興会

継続

「うたって・おどって・みて」楽しい暮らしを応援事業(109千円)

仲間づくりやふれあいを大切にする気持ちを醸成し、文化活動実践者及び鑑賞者の裾野を広げるため、「生涯学び続けることの楽しさ」を伝える「夢まつり」を開催します。

実施主体:牧文化協会

継続

宮口古墳公園・遊歩道維持管理事業(388千円)

宮口古墳群や牧歴史民俗資料館への誘客を促進するとともに、幅広い世代が宮口古墳公園を憩いの場として活用することによる交流人口の拡大を図るため、公園の花壇等の植栽や遊歩道等の維持管理を行います。

実施主体:市(提案団体:宮口古墳花の会)

1 区内団体との意見交換会 開催結果

- 開催日時 令和7年3月18日(火) 午後7時から午後8時30分まで
- 会場 牧コミュニティプラザ2階 集会室(非公開)
- 参加者 牧区地域協議会委員 11名 / 事務局 5名
区内団体 5団体 14名
若者女性・体験移住) まきにいる 3名 / 牧区ふるさと観光振興会 2名 / 越後田舎体験牧・清里・板倉協議会 2名
農業・林業) 牧農業生産組織連絡協議会 4名 / 牧認定農業者連絡協議会 3名



2 出された主な意見

聞取り項目	農業・林業	若者女性・体験移住
本当はここまで出来れば良いと思っていること(理想的な活動の姿)	● 機械の共同利用ができれば良いが理想論である。	● 体験に来てくれた人がいつか牧に移住してほしい。体験が終わってからもつながりが続き、米や野菜を送るなどの例もある。
困っていること(理想的な活動ができない要因・課題)	● 高齢化や後継者不足で法人や生産組織の解散が相次いだり、個人の農家も農業を辞めてしまう人が少なくない。 ● 会として大きな活動ができれば良いが、活動助成金も年々減少し、資金が乏しい。 ● 移住とはいえ、来てくれれば誰でも良いというわけではない。	● 高齢化が進み、存続が危うい。 ● 資金繰りが苦しい。 ● コロナ禍で体験を希望する学校が少なくなったほか、受入れ可能軒数も減っている。 ● 若手と言ってもメディアに疎い人もいる。それぞれ仕事を抱えながらで時間が取りづらく、専任で動ける人がいない。
少しでも理想的な活動に近づくために必要な支援など	● 視察などで色々な情報を得ることが大事。 ● 以前は移住どころか、集落内でお茶飲みすることが情報交換だったが、今はそれもなかなかできていない。 ● かしこまらずに腹を割った話ができる場所が必要なのでは。	● 若い人や牧以外の人からも意見やアイディアをもらい、一緒に活動したい。 ● 集える場があって、つながりができれば、それぞれの得意な部分を持ち寄れる。 ● 若い人がいないのではなく、出てきにくいのでは。気軽に集まれる場があると良い。

👉 両方のテーマとも、世代を超えてつながり、腹を割った話合いができる場所が大事との声 1

3 意見交換会の振り返り・まとめ(素案)

※各グループで進行を務めた事務局としてののとりまとめ

● 農業・林業グループの総括

- ・ 農業・林業グループでは高齢化や後継者の確保が困難などの厳しい現状から、前向きな意見が出にくい傾向があった。
- ・ 農業という自然を相手にした厳しい生業であることを踏まえて、農業用機械の共同利用など「できれば良い」と考えることも、あくまでも「理想論」として冷静に受け止められた。
- ・ かつては、集落内でもお茶飲みが気軽に行われ、色々な話が出され、まさに情報交換の場であったが、今はなかなかない。
- ・ 腹を割って話ができる場所を作り、今後も引き続き話合いができるようにしていくことで、前向きな意見が出されるようになっていくのではないかと推察。

● 若者女性・体験移住グループの総括

- ・ 若者女性・体験移住グループでは、高齢化、資金難、多忙などの理由から、なかなか思うような活動になっていないとの声があった。
- ・ 一方で、自らの取組自体に意義を感じる前向きな意見も少なくなく、自分たちだけでは厳しいが、若い世代や牧区以外の色々な人たちとのつながりができれば、活動の継続やさらなる発展にも道筋がつけられるのでは、という旨の声があった。



● まとめ

- ・ 獲得目標のひとつ「各種取組を下支えする体制整備に向けた機運の醸成」だが、牧区地域協議会が現時点の考えとして提起した「農村RMO」のような体制整備についての意見や感想はほぼなく、現時点では比較的理解がしにくい話題であったかと思われる。
- ・ 一方、もうひとつの獲得目標である「各団体が抱える課題の把握により、その解決につながる下支えの在り方検討につなげる」では、両グループとも引き続き、**様々なつながりや腹を割った話合いができることに意義を感じる声**が出されたことから、そのような場を整えていくこともまずは必要かと思われる。



● 今後の展開方向

- ・ 計画どおり、区全体を活動範囲とする「特定非営利活動法人牧振興会」及び「公益財団法人牧農林業振興公社」との意見交換会を行い、現時点での地域協議会の考えに対する意見や期待すること等の考えを把握する。
- ・ その上で、今回の意見交換会で出された「様々なつながりの場」「腹を割って話し合う場」の在り方を含め、下支え体制の整備についての検討を行っていく。